

## 「人口ビジョン・総合戦略」(案)に対して頂いた意見の概要と市の基本的な考え方(修正対応分案)

実施期間:平成27年9月18日～平成27年10月18日

No.	見出し	意見概要	市の基本的な考え方
24	「総合戦略(案)」の構成について	常に膨大なページ数(111頁)になっているため、非常に読みづらく、総合戦略(案)のポイントが分かりづらい。もっと簡潔、明瞭な計画にし、市民に分かりやすい計画内容にすべきである。以下のことを提案するので、構成の変更を検討すべきである。  (1)「人口動向分析」「将来人口の推計と分析」「意識調査・アンケート・意見交換」などは、本文に主な分析データとポイントだけを記載し、全てのデータや資料は参考資料として別冊にすべきである。	ご意見を踏まえ、P36～P68の内容を参考資料として巻末に掲載する形に修正します。
25	「総合戦略(案)」の構成について	(2)総合戦略(案)の計画期間がH27～H31年度であることを考慮すれば、「Ⅳ. 施策の基本的方向と具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)」の項に「平成27年度実施事業」を掲載するのはおかしい。掲載するのであればH27～H31年度の実施事業を掲載する必要があるため、「平成27年度実施事業」を削除し、参考資料として別冊にすべきである。	地方版総合戦略の迅速な策定及びこれに関する優良施策等の先行実施に対する支援として交付された「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)」の対象事業について、27年度中の完了及びKPIの設定、総合戦略への掲載が求められているため、参考として27年度実施事業を掲載しているものですが、ご意見を踏まえ、巻末での参考資料としての記載に修正します。
28	老年人口全体のグラフ表示について	本文でも触れているので、スペース的には難しいかもしれないが、各グラフについて、65歳以上全体の表示も必要ではないか？	ご指摘のとおり修正します。
29	基本的な考え方及び基本視点について	「第2章 Ⅰ. 基本的な考え方」の表現を下記のように修正したほうがわかりやすいのではないかと？  Ⅰ. 基本的な考え方 習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、より多くの人々が、習志野市で暮らすことに、「幸せ」、「魅力」を感じ、より多くの人々から、将来にわたって、「住みたいまち」、「住み続けたいまち」として選ばれ続けることを目指した総合的なまちづくりの戦略です。 この戦略を進めるにあたっては、本市における人口の現状と将来の展望を提示する「習志野市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」を踏まえつつ、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方である“将来の人口減少と地域経済縮小の克服”、“まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立”や政策5原則等を勘案します。 併せて、本市の基本構想における将来都市像である『未来のために～みんながやさしさでつながるまち～』に向けたまちづくりを進める中で取り組みます。 1. 基本視点 今後5カ年の戦略における、「基本目標」や「施策の基本的方向」、「具体的な施策」をまとめるための基本視点は、以下の3点とします。	ご指摘のとおり修正します。
31	政策の目標設定における国の政策4分野について	73ページ:「4. 政策の……」中に「政策4分野」とあるが、解説が必要ではないか。	「政策4分野」を「4つの基本目標毎に、本市の」に修正し、次ページに参考として掲載している国の総合戦略の記載内容に加筆します。



No.	見出し	意見概要	市の基本的な考え方
43	地域における教育機関の相互交流促進に係る行政の「広報」による支援と「環境整備」の支援	これらの本学の活動を継続的に推進する上で、「学」の立場から習志野市(官)へ希望することの一つが、行政の「広報」による支援と「環境整備」の支援である。特に学生の地域貢献活動に対しては、市の広報などによる地域住民への周知などにより、学生の評価と活動のモチベーション・アップが期待される。学生団体が継続的に地域貢献活動に取り組むためには、大学による学生のボランティア精神の育成に加え、それを評価する仕組みも有効となる。学生のボランティア活動を評価することにより、活動に継続性と活発化が生まれて次につながる「良い循環」が生まれる。また、大学や学生団体による地域貢献活動において、地域の施設・設備や地域住民との関係性など、行政による「環境整備」の支援も重要になる。	<p>基本目標2の「(ア)若者の定着・定住促進」の具体的な施策③及び「(ウ)地元大学等の活性化と協働による地域の成長力の向上」の具体的な施策②を以下のとおり修正します。</p> <p>基本目標2-(3)-(ア) ③「学生の力を活かした地域の活性化、及び地域とのコミュニケーションの機会・場づくり」 : 大学と連携した学生の地域活動への参加の促進、商店街等の活性化につながる取組の推進 → 大学と連携した学生の地域活動への参加の促進、商店街等の活性化につながる取組の推進、学生の地域活動に係る情報発信等地域へのPR、学生の地域活動を評価する仕組みの構築、学生の地域活動における環境支援</p> <p>基本目標2-(3)-(ウ) ②「学生の力を活かした地域の活性化、及び地域とのコミュニケーションの機会・場づくり」 : 大学と連携した学生の地域活動への参加の促進、商店街等の活性化につながる取組の推進 → 「大学と学生の力を活かした地域の活性化、及び地域とのコミュニケーションの機会・場づくり」 : 大学と連携した学生の地域活動への参加の促進、商店街等の活性化につながる取組の推進、学生の地域活動に係る情報発信等地域へのPR、学生の地域活動を評価する仕組みの構築、学生の地域活動における環境支援、大学との協働による高度な学習機会の提供</p>
44	産学官の「Total Win」について	<p>アカデミアである本学は、限られた資源の中でも大学の教育的特色を活かし、引き続き産学官連携活動を中心にして、相互のWin-Winの関係性を探り、最終的には産学官の「Total Win」を目指していくべきと考える。産学官それぞれにとってのWinの例としては、下記のようなものが考えられる。Win-Loseによるゼロサムではなく、「Total Win」を生み出す相互の関係性の構築に向けて「学」の教育的立場から貢献したいと考える。「学」の教育的立場から貢献によって、相互のWin-Winの関係構築と、地域住民と3大学学生の地域生活への満足度や地域定着率(※)の向上など、魅力ある習志野市の形成(Total Win)につながることを期待したい。地域住民と学生たちの地域への愛着や住みやすさを追求する視点は、総合戦略における3つの基本視点のうち、(1)人口減少問題への複眼的な取組、(3)習志野市を愛し、時代を担うひとを呼び・育む取組とも連動する。</p> <p>【地域(産)のWin】 ・地域経済発展 ・全国知名度・好感度アップ(ブランドカアップ) ・人口維持・増加 ・生活環境の質向上 ・ふるさと(郷土)愛を持つ住民の増加 ・地域文化の維持・発展</p> <p>【大学(学)のWin】 ・教育・研究の発展 ・大学の知名度 ・好感度アップ(ブランドカアップ) ・受験者数の増加 ・補助金の増大 ・愛校心を持つ学生 ・卒業生の増加</p> <p>【行政(官)のWin】 ・地域経済発展 ・全国知名度・好感度アップ(ブランドカアップ) ・地方税収入の増大 ・地方交付金の増大</p>	<p>基本目標2「(ウ)地元大学等の活性化と協働による地域の成長力の向上」の具体的な施策②に以下のとおり加筆します。</p> <p>「②学生の力を活かした地域の活性化、及び地域とのコミュニケーションの機会・場づくり」 : 大学と連携した学生の地域活動への参加の促進、商店街等の活性化につながる取組の推進 → 「②大学と学生の力を活かした地域の活性化、及び地域とのコミュニケーションの機会・場づくり」 : 大学と連携した学生の地域活動への参加の促進、商店街等の活性化につながる取組の推進、学生の地域活動に係る情報発信等地域へのPR、学生の地域活動を評価する仕組みの構築、学生の地域活動における環境支援、大学との協働による高度な学習機会の提供</p>

提出者数及び件数合計…4名44件